

## 市町村長・管理職特別セミナー

(4月23日・24日)

4月23日、24日の2日間の日程で、令和8年度第1回「市町村長特別セミナー」及び「管理職特別セミナー」を一般財団法人地域創造との共催により開催し、全国各地から計55名の市町村長、管理職等の皆様にご参加いただきました。

初日は、まず「食品ロス削減に向けて自治体にできること」と題して、食品ロス問題ジャーナリストの井出留美氏から、食品ロスの定義から、食品ロスが地球に与える影響、食品ロス削減のためのポイントや国内外の政策動向に至るまで、豊富なデータと事例を用いて多角的にご講演いただきました。参加者からは、「貴重なご示唆をたくさんいただいた。早速ごみを減らすための施策を取り入れたい」、「食品ロスによる経済的損失の大きさに驚いた。町の財政改革にも活用できると思った」、「気候変動に対処するために食品ロス削減が解決策の上位にあることに改めて気づかされた」などの感想をいただきました。



井出 留美氏



田上 富久氏

続いて、「ひとの文化、まちの文化、社会の文化～長崎市長16年の経験から～」と題して、長崎地域力研究会代表で元長崎市長の田上富久氏から、文化と行政の関わりやその重要性について、3つの判断ポイント「長期的にみる、多面的にみる、本質をみる」というキーワードを交えながらご講演いただきました。参加者からは、「リーダーとしての考え方に共感。自信になった」、「短期間で成果を求める傾向になりがちであるが、長期的な視点も併せ持つことの重要性を認識できた」、「文化がないと人はただの役割。まちはただの場所。社会はただの仕組みという言葉に感銘を受けた」などの感想をいただきました。

初日の最後に、一般財団法人地域創造公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティストとしてもご活躍になっているチェロ奏者の奥田なな子氏とピアノ奏者のゴウ芽里沙氏によるミニコンサートを開催しました。楽曲の間には、演奏者から「チェロ」という楽器の説明、小学校でのアウトリーチ活動の紹介などが行われたほか、紙コップと輪ゴムで作った即興楽器で参加者全員と共演しました。参加者からは、「素晴らしい音色に癒された」、「一流の奏者が芸術的な空間を創ってくれた。参加型の工夫は子どもたちの心に残ると思う」、「本物に触れる機会の大切さを再認識できた」などの感想をいただきました。



奥田 なな子氏 (チェロ:右)  
ゴウ 芽里沙氏 (ピアノ:左)



為末 大氏

2日目は、まず、「諦める力」と題して、元陸上競技選手の為末大氏から、失敗から学ぶ姿勢や思い込みを排する重要性など、仕事に臨む心構えや生きていく上での指針となる『心の持ち様』の真意についてご講演いただきました。参加者からは、「実体験に基づく説得力のある話だった」、「人生の転機について考えさせられた」、「失敗の意味を後から変化できる経験としてとらえるのは、私たちの仕事にも通じると感じた」などの感想をいただきました。

最後に、「道の駅を核とし地域を牽引する拠点にする秘訣」と題して、株式会社シカケ代表取締役で一般社団法人道の駅経営パートナーズ理事の金山宙暉氏から、地域活性化の原動力である「道の駅」の運営手法や活性化事例についてご講演いただきました。本講演は、「地域経営」の視点から道の駅をどう活性化の核に据えるかをテーマとしており、参加者からは、「稼ぐ自治体運営のノウハウを楽しく聞いた」、「道の駅経営の良いヒントをたくさんいただいた」、「道の駅を核とした地域の活性化につながる話を聞け、大いに参考となった」などの感想をいただきました。



金山 宙暉氏

## 市町村議会議員特別セミナー (4月20日・21日)

4月20日、21日の2日間の日程で、令和8年度第1回「市町村議会議員特別セミナー」を開催し、全国各地から134名の市町村議会議員の皆様にご参加いただきました。



木内 博一氏

初日は、まず、「農業の新たなかたちへ」と題して、農業組合法人和郷園代表理事の木内博一氏から、和郷グループが展開する農業を起点とした事業について、様々な取り組み事例をご紹介いただき、これからの新しい農業の可能性についてご講演いただきました。参加者からは、「素晴らしい考え方、先進事例であった」、「植物工場の将来性として公共空地の活用につなげられるかもしれない」、「6次産業化や独自のビジネスモデルに大変感心した。さらに自治体と連携しながら農業を指定管理事業へと発展させている点も印象的であった」、「素晴らしい取り組み事例をたくさん知ることができた。私の自治体でもポテンシャルはあると思うので活かしていきたい」、「成功者の話からは参考になるものが多いと感じた」、「インプット情報、自治体へのコミットを含めメッセージが明確でわかりやすかった」などの感想をいただきました。

続いて、「これからの地方議会に求められるもの～地域マネジメントの視点の重要性～」と題して、西南学院大学法学部教授の勢一智子氏から、人口減少時代における地域課題への対応方策としての地域マネジメントの可能性等についてご講演いただきました。参加者からは、「知っているつもり課題をあらためて再認識できてよかった。課題解決に向けて役立てていきたい」、「地方議員の責任の重さを感じる内容でよかった」、「今までにない切り口、角度からのお話で、広域的にわが市を考える機会をいただいた」、「生物多様性と環境共生型の投資マネジメントの大切さを学んだ」「一番知りたかったテーマと内容であった」などの感想をいただきました。



勢一 智子氏



佐藤 淳氏

2日目は、まず、「生成AIは議会を変える～“補完する”価値、“決める”責任～」と題して、青森大学社会学部教授の佐藤淳氏から、地方議会における生成AIの活用方法等についてご講演いただきました。参加者からは、「生成AIの活用について目からウロコのお話を聞くことができた」、「学術的な面から勉強になり、疑問に思っていたことが全て解けた最高の講義だった」、「とてもわかりやすく大変勉強になった。もっと聞きたい内容であった」、「生成AIは怖くて使えなかったが、今回の講演を聞いて使えるかも？と思えた」、「生成AIに対する考え方が大きく変わった」などの感想をいただきました。

最後に、「『脳と習慣』の切り離せない関係～心のトリセツ～」と題して、株式会社感性リサーチ代表取締役で人工知能研究者の黒川伊保子氏から、脳科学の視点から、仕事でもプライベートでも使えるコミュニケーション方法等についてご講演いただきました。参加者からは、「素晴らしい講義だった。生き方が変わるかもしれない」、「とても軽快でわかりやすい講義だった」、「自分の地域でも考えていかなければならないと思える、とてもわかりやすく楽しい講義だった」、「心の持ちよう、議会や市民への対応の心構えのためのエキスをいただいた」、「楽しく実体験を感じさせてもらい、今後の議員への対応の参考になった」、「あっという間に時間が過ぎた。多くを学んだので実践していきたい」などの感想をいただきました。



黒川 伊保子氏

## 監査委員特別セミナー

(4月15日・16日)

4月15日、16日の2日間の日程で、「監査委員特別セミナー」を開催し、全国各地から計121人の監査委員の皆様にご参加いただきました。

初日は、まず、「地方行財政の最近の動向について」と題して、総務省自治行政局行政課課長補佐の遠藤裕樹氏から、監査基準及び実施要領をはじめ、持続可能な地方行財政のあり方、広域連携など、幅広く最新トピックについてご講演いただきました。参加者からは、「地方自治体の現状に即しており興味深かった」、「最新の動向を知ることができ、流れが理解できた」、「今後、人口減少、人手不足、新たな社会課題、デジタル化に向け研修を増やしていきたい」などの感想をいただきました。



遠藤 裕樹氏



紺野 卓氏

続いて、「監査委員監査の位置づけと現代的意義」と題して、日本大学商学部教授の紺野卓氏から、民間企業の不正会計事例の紹介、内部統制制度の現況を踏まえた、監査委員監査に求められていること等についてご講演いただきました。参加者からは、「内部統制の重要性や監査報告書や意見書の的確な説明責任があることをわかりやすく紹介してくれた」、「監査の品質によるガバナンスの最終チェック機能の重要性を痛感した」、「わかりやすく、説得力があり、監査の重要性、新たな視点等が大変有効だった」などの感想をいただきました。

2日目は、まず、「行政サービスのアップデートの観点から見る自治体監査～監査を通じて費用対効果の高い予算執行を促す～」と題して、横田慎一公認会計士事務所／一般社団法人行政経営支援機構の横田慎一氏から、自治体の説明責任をはじめ、いわゆる3E監査や施策の立案フェーズにおける考え方、捉え方のアップデートにかかるチェックの必要性等についてご講演いただきました。参加者からは、「行政サービスのアップデートという新しい着眼点をお示しいただき、指摘というより、攻めの監査と感じた」、「3E監査の具体的な考え方がよくわかりとても有意義だった」、「効果検証について、施策の断片化、重なり合い、重複についての手法は有意義であった」などの感想をいただきました。



横田 慎一氏



中村 健人氏

最後に、「住民監査請求への対応」と題して、弁護士で、徳島県小松島市法務監の中村健人氏から、住民の監査機能の一つである住民監査請求に係る実務上の留意点等についてご講演いただきました。参加者からは、「住民監査請求の要件が確認できた。条例、法の厳格な解釈・適用をすべきと再確認した」、「監査は政策論ではなく、法解釈論でやらなければならない」、「具体的な監査委員の判断が否定された住民訴訟の例を示していただいた。今後の監査業務において大変参考になった」などの感想をいただきました。